

## 村民意向調査の実施結果について

- 調査目的： 震災の復興に関する村民の意向を把握し、復興計画策定にあたっての基礎資料とする。
- 調査対象： 村内の全世帯 854 世帯
- 調査期間： 平成 24 年 1 月 11 日～1 月 23 日
- 調査方法： 区長を通じて全世帯に配布し、郵送により回収
- 調査結果： 回答数 435 世帯（回答率 50.9%）

### ■ 集計結果

#### ◆回答者の内訳

##### 【居住地域】

地区名	対象数 (a)	回答数		回答率 (b/a)
		(b)	構成比	
白鳥	70	28	6.4%	40.0%
平滝	56	28	6.4%	50.0%
横倉	30	15	3.4%	50.0%
青倉	40	24	5.5%	60.0%
森・塩尻	92	39	9.0%	42.4%
泉平	24	13	3.0%	54.2%
箕作	47	27	6.2%	57.4%
月岡	43	27	6.2%	62.8%
小滝	11	8	1.8%	72.7%
野田沢	25	19	4.4%	76.0%
大久保	18	13	3.0%	72.2%
天地	4	3	0.7%	75.0%
雪坪	11	7	1.6%	63.6%
志久見	37	19	4.4%	51.4%
柳在家	18	6	1.4%	33.3%
切欠	13	4	0.9%	30.8%
長瀬	27	11	2.5%	40.7%

地区名	対象数 (a)	回答数		回答率 (b/a)
		(b)	構成比	
笹原	7	3	0.7%	42.9%
原向	22	10	2.3%	45.5%
当部	7	4	0.9%	57.1%
天代	6	5	1.1%	83.3%
北野	15	11	2.5%	73.3%
坪野	9	7	1.6%	77.8%
中野	11	6	1.4%	54.5%
極野	25	12	2.8%	48.0%
小赤沢	44	15	3.4%	34.1%
屋敷	31	19	4.4%	61.3%
上野原	17	11	2.5%	64.7%
和山	11	5	1.1%	45.5%
切明	2	0	0.0%	0.0%
五宝木	9	2	0.5%	22.2%
仮設	50	18	4.1%	36.0%
村外	22	5	1.1%	22.7%
無回答	—	11	2.5%	—
合計	854	435	100.0%	

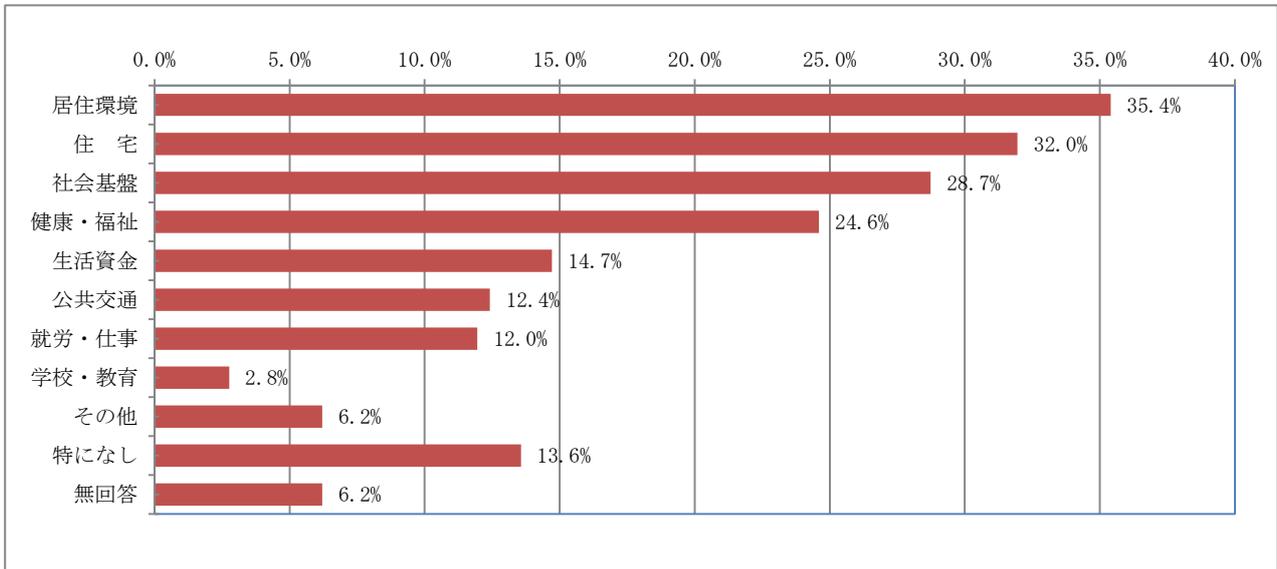
##### 【家族形態】

区分	回答数	構成比
ひとり暮らし	85	19.5%
夫婦だけ	160	36.8%
親と子（2世代）	122	28.0%
祖父母と親と子（3世代）	47	10.8%
その他	14	3.2%
無回答	7	1.6%
合計	435	100.0%

◆震災により困っていることについて（複数回答・3つまで）

① 居住環境（普請、集落の維持 等）	35.4%
② 住宅	32.0%
③ 社会基盤（道路、上下水道 等）	28.7%

※割合（%）は総数（n=435）に対する割合 ※枠内は上位3項目を記載



【具体的な内容】

<主なご意見等>

◇居住環境

- ・高齢化と過疎化により、これからの水路普請や集落の維持に不安を感じる。
- ・集落内の戸数が減り、普請等における1戸あたり負担が大きく、大変である。

◇住宅

- ・住宅や物置等を修繕したいが、資金がなく困っている。
- ・震災復興住宅に入居できるのか不安である。

◇社会基盤

- ・道路等の復旧工事が遅れ、通学や買い物に行くのに不便である。
- ・避難所である公共施設の耐震化が心配である。

◇健康・福祉

- ・震災以降、ストレスで精神的に体調不良が続いている。
- ・現在、診療所に常勤の医師がいないため、不安である。

◇生活資金

- ・住宅等の修繕に多額の費用がかかり、蓄えを使い果たしてしまい、今後の生活が不安である。
- ・住宅等の修繕のために借入れをしたが、今後の返済が心配である。

◇公共交通

- ・自動車がないため、買い物や病院に行くのに苦労している。
- ・高齢者が自由に出かけられるように、公共交通を充実してほしい。

◇就労・仕事

- ・震災により仕事をなくし、とりあえず別の仕事をしているが、生きがいを感しない。
- ・震災以降、観光客が減少している。

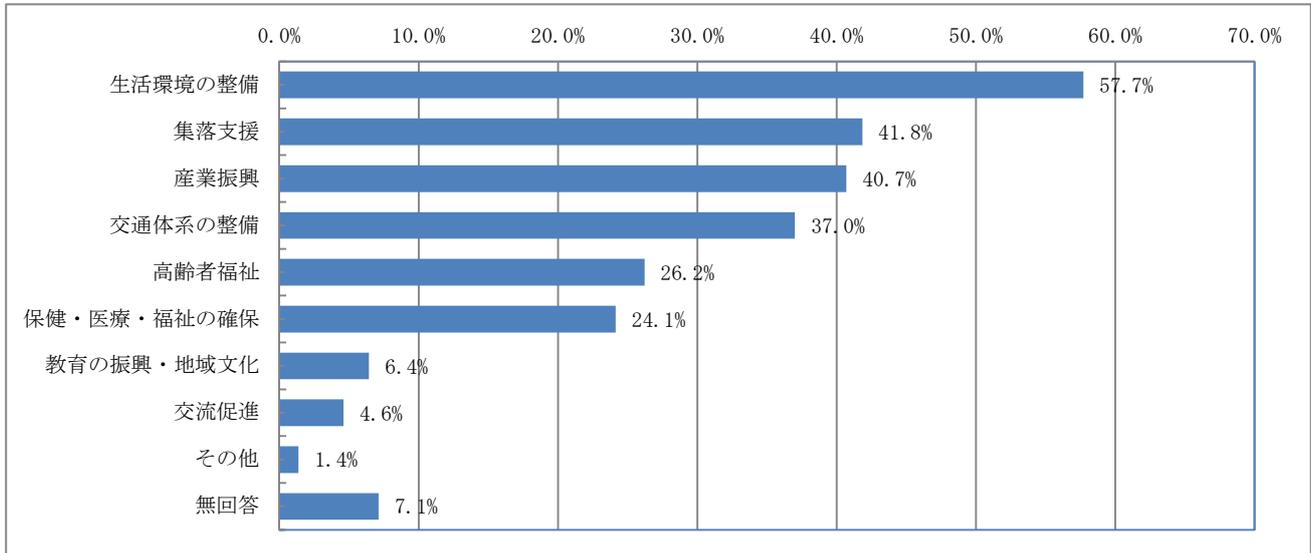
◇その他

- ・農地の復旧工事が遅れ、来年の作付けに間に合うのか心配である。
- ・家屋の解体や村外移転等により、集落内の家が減り、寂しくなった。
- ・高齢のため、今後の除雪が心配である。

◆復興に当たって、期待する取り組みについて（複数回答・3つまで）

① 生活環境の整備（住宅の整備、雪対策、インフラ整備 等）	57.7%
② 集落支援（集落機能の維持、地域づくり 等）	41.8%
③ 産業振興（農林畜産業、商業、観光業の振興 等）	40.7%

※割合（%）は総数（n=435）に対する割合 ※枠内は上位3項目を記載



【具体的な内容】

<主なご意見等>

◇生活環境の整備

- ・若者、Iターン者等の定住促進のための住宅整備。
- ・老後になっても安心して暮らせる高齢者共同住宅の整備。
- ・住宅等の再建に対する貸付等の資金援助。
- ・集落ごとの避難所の整備など、集落ごとの防災対策の確立。

◇集落支援

- ・集落の普請等の負担を軽減するために、重機や農業用水等の整備。

◇産業振興

- ・若者定住のための企業誘致等による就労の場の確保。
- ・村内企業発展のための施策。
- ・基幹産業である農業の後継者育成、基盤整備等の農業振興。
- ・村の地域資源等を活用した観光振興。

◇交通体系の整備

- ・国道117号の迂回路の整備。
- ・冬期間でも安心して通勤、通学できる道路整備。
- ・デマンドバス等の運行体制の整備。

◇保険・医療・福祉の確保

- ・診療所の医師確保など、医療体制の充実。
- ・介護予防や高齢者の交流促進。

◇教育の振興・地域文化

- ・伝統文化の継承、文化財の保護・活用。

◇交流促進

- ・都市住民との交流を深め、誘客等の促進。

## ◆復興計画の構成（案）について（自由記述）

### <主なご意見等>

- ・若者がたくさん暮らせることは大いに賛成だが、それにはやはり産業振興がカギになる。具体的な施策を早く示してほしい。栄村に帰ってきたくても、帰って来られない若者がいるのが事実である。
- ・基本理念にあげている『豊かで安心して暮らせる』『再生モデルとなる』の2点の実現に大いに期待している。
- ・スローガンのような村を望んでいる。若者の定住が何よりも大事だと思う。村として集中した取り組みが必要だと思う。
- ・農業に興味のある若者が農業を始められる環境づくり。栄村の資源を活かした産業の再生は、とてもおもしろいと思う。
- ・スローガン、基本理念、三つの基本方針、三つの前提のいずれも良いと思うが、復興を担うのは住民自身であることを忘れずに、行政は住民の思いを受けとめ、国の制度や法律がなくても住民と共に実現をしていくという確固たる態度をもってもらいたい。
- ・就労の場所をつくらないと、スローガンは掛け声で終わってしまう。Iターン、Uターン者を積極的に受け入れる地域（集落）でなければならない。集落再生には、10年先や20年先を考え、集落NPOが必要だと思うので、村はここに支援して設立を促がしてはどうでしょうか。三つの基本方針（案）の農業を軸に資源を活かした産業振興とあるが、農業・林業、森林を軸に資源としてほしい。
- ・前提、基本方針は良いと思う。今住んでいる人が、ちゃんと生活していけることが大切だと思う。
- ・村民は過疎化の流れの中で、村での生活に対し不安や失望を感じている。その上で、この震災のショック、心の傷は大変深いものがある。「スピード感ある復興を」ということも重要だとは思いますが、村民の気持ちが前向きになるには、1人1人の気持ちを出すことのできる場作りと時間も必要だと思う。計画だけが先行し、肝心の村民がついていけないようなことにならないように、たえず村民に耳を傾け続けてほしい。
- ・復興計画の策定に当たり、その計画の内容が今後の行政に反映するように、努力目標の設定や執行状況の検証を行うようにしてもらいたい。また、沢山の方の意見も大切ですが、計画の目標がブレないように取りまとめてほしい。
- ・スローガンとても良いと思う。人口減少、集落機能の低下等が進む中ではあるが、この震災をきっかけに村が飛躍するチャンスでもあると思う。若者がたくさん暮らしていけるよう、定住対策をより進めてほしい。Iターン・Uターン者を迎え入れるには、仕事・住居・生活環境が大事になってくる。基本方針にある農業を軸に資源を活かした産業振興に期待したい。
- ・この構成案がしっかりと作成されれば、希望の持てる村づくりが出来ると思う。策定委員会の中で、一生懸命農業に取り組む人達の意見、要望を聞き取り調査をして、いかに計画案を作成するかにかかっている。
- ・スローガンは長く、言いにくい、覚えづらい。気持ちは分かるが「震災に負けない、元気な声が響く村」の方が良いのでは。計画を実行するには、実践部隊をいかに育てるかが課題である。

## ◆栄村の将来ビジョンについて（自由記述）

### <主なご意見等>

- ・今まで以上に栄村が発展し、皆が安心して暮らせるようになることを望みます。
- ・震災をきっかけに、さらに村民一丸となって村の発展に向け、希望を持ち、頑張っていける村づくりを期待している。
- ・栄村の将来は若者の定着にかかっている。若者の定着なくして、村の発展はない。
- ・今までの集落体制をしっかりと守ってもらいたい。
- ・基本理念の中心に、住民が主人公と住民自治をしっかり位置付けること。
- ・栄村の復興には、若い人たちの力が必要であり、そのためには、若い人達を呼び込む産業（仕事）、安全環境（住宅）の確保を考えること。
- ・農林業を軸に、6次産業など新しい分野を開拓し、美しい風土を活用した観光・交流を盛んにし、住民がふるさとに誇りを持って生きていける将来像を創造してほしい。
- ・栄村の負の部分である雪を資源として活用するなど、雪国である栄村を他の市町村のモデルとなることを目指す。
- ・栄村を現状より住みやすい村にするためには、行政任せではなく、村民自らが行動できることが重要であり、小さな村が元気に存続するには、全ての村民の団結が必要である。
- ・若者が定住できるような公営住宅の整備と就労の場となるモノづくり産業、そして村の特産品の開発が必要である。
- ・栄村は集落が点在して成り立つ村なので、まず集落が活性化しなければならない。そのためには、交流を盛んに行うことで、集落の維持・再生を図りながら、農業振興を進めていけば活性化に繋がる。
- ・若い人たちが栄村に残って生活していけるような村であってほしい。
- ・栄村は背伸びしないで、小さな村で良い。山の資源を活かし、何か一つ、ピカッと光れば良い。